職業実践専門課程等の基本情報について

学校名 専門学校東京ホスピ	² タリティ•		8可年月日	校長名		Ŧ	162-0843	所在地			
アカデミー		昭和54	年10月1日	千葉	敦 		東京都新宿区市谷田 03-3235-5713	日町3-21			
設置者名		設立認	图可年月日	代表者	·名	Ŧ	101-0062	所在地			
学校法人21世紀アス	カデメイア	昭和42	年1月12日	田坂	太志		東京都千代田区神田 03-3292-0662	日駿河台2-11			
分野		認定課程名	フライダ	認定学科名 ル学科 フライ	イダルフ	専	門士認定年度	高度専門士認定	生度		門課程認定年度
商業実務		光専門課程		ラワー専攻			t12(2000)年度	-		平成2	7(2015)年度 ————————————————————————————————————
	①企業と連	携した実習授業	^j ライダル業界がす 業を行いブライダル 、マナーやコミュニィ	レ業界における	高い専門的	りな技術と	成を目的とする。 知識を習得を図る。				
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)		^て ルコーディネイ	′ター技能検定、レ	ストランサービス	ス技能検定	Ē					
修業年限	昼夜	全課程の修了	アルック (アルマングライングライング できます) (アルマン・アイス) (アルアイス) (アルマン・アイス) (アルアイス) (アルマン・アイス)	時数又は総	講	轰	演習	実習	実	静	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位 かに記入	1,79	2 単位時間 単位	1,152	单位時間 単位	O 単位時間 単位	1,408 単位時間 単位		単位時間単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒爭	€員(A)	留学生数(生徒実員	lの内数)(B)	留学生割	合(B/A)					
70 人		人		0 人	0 %	ó					
	■卒業者	数(C) 望者数(D)	:	0		<u></u>					
	■就職者	数 (E)	:	0		人 人					
		職者数(F)		0		人					
			乱職者の割合(F/E	Ξ)							
		こ占める就職者(0	(%					
			V/ D) D (L/ U)	0	(%					
	■進学者	数		0		人					
	(令和	6 年度	度卒業者に関する令	和4年5月1日	時点の情報	艮)					
	■主な就興	敞先、業界等									
	(令和6年度	卒業生)									
	卒業生0										
			ら第三者評価:				無				
弗二百による	※有の場合	、例えば以下につ	いて仕恵記載								
学校評価		評価団体:		受	審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL			
 当該学科の											
ホームページ	https://w	ww.tit.ac.jp/de _l	partment/bridal/	/							
URL	() 22/11	11年887年1277年1	<u> </u>								
		時間による算定	E <i>)</i>						0 500	出 <i>八</i>	
		総授業時数	と企業等し事業し	た実験・実習	宇はの短光	€ 11± % 6				単位時間	
			ち企業等と連携し7 			中寸奴				単位時間 単位時間	
		<u> </u>	ら近耒寺と連携した 	こ 日 の	×X					単位時間 単位時間	
		7.5		 等と連携した必	修の実験・	生型 ・ 生	技の授業時数			单位时间 単位時間	
				寺と連携した必 ――――― 等と連携した必			スマルス不呼び			单位时间 単位時間	
		(>								单位时间 ————— 単位時間	
企業等と連携した 実習等の実施状況			ノリエネサに圧防		UII	(木町)(04	十 江 山 田	
(A、Bいずれか	(B:単位	数による算定)									
に記入)		総授業時数								単位	
			 ち企業等と連携し7	た実験・実習・	 実技の授業	 美時数				<u></u> 単位	
		うち	 ち企業等と連携し7	た演習の授業時	 数					単位	
		うち	 ち必修授業時数							単位	
			うち企業	等と連携した必	修の実験・	実習・実	技の授業時数			単位	
			うち企業	等と連携した必	修の演習の	D授業時数				単位	
		(?	うち企業等と連携	したインターン	シップの授	段業時数)				単位	
			D専門課程を修了し 数育等に従事したも			/ * **	┑┼┼┈═╖╒ ╩╶┼ ╴┈┈	5 (** 1 			
		その担当する教程の修業年限と	数育等に従事したる と当該業務に従事し	者であって、当	該専門課	(専修学	·校設置基準第41条第1項	〔第1号 〕	1	٨	
		その担当する教	数育等に従事したる と当該業務に従事し	者であって、当	該専門課	(専修学	·校設置基準第41条第1項	5第1号)	1	٨	
		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者	数育等に従事したる と当該業務に従事し	者であって、当	該専門課		於於置基準第41条第1項 於於置基準第41条第1項			Д Д	
		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者	牧育等に従事したる と当該業務に従事し 皆 立を有する者等	者であって、当	該専門課	(専修学		頁第2号)	1		
教員について記		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者 ② 学士の学位 ③ 高等学校教	牧育等に従事したる と当該業務に従事し 皆 立を有する者等	者であって、当	該専門課	(専修学	·校設置基準第41条第1項	[第2号) [第3号)	1	J	
		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者 ② 学士の学位 ③ 高等学校教	牧育等に従事したる と当該業務に従事し と当該業務に従事し が がある者等 なを有する者等 と対論等経験者	者であって、当	該専門課	(専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項	[第2号) [第3号) [第4号)	1	Д Д	
		その担当する教程の修業年限と年以上となる者② 学士の学位③ 高等学校教④ 修士の学位⑤ その他	牧育等に従事したる と当該業務に従事し と当該業務に従事し が がある者等 なを有する者等 と対論等経験者	者であって、当	該専門課	(専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項	[第2号) [第3号) [第4号)	1	Д Д Д	
教員について記		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者 ② 学士の学位 ③ 高等学校教 ④ 修士の学位	牧育等に従事したる と当該業務に従事し と当該業務に従事し が がある者等 なを有する者等 と対論等経験者	者であって、当	該専門課	(専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項	[第2号) [第3号) [第4号)	1	Д Д Д	
教員について記		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者 ② 学士の学位 ③ 高等学校教 ④ 修士の学位 ⑤ その他 計	牧育等に従事したる と当該業務に従事した。 と当該業務に従事した。 立を有する者等 立を有する者等 故諭等経験者 立又は専門職学位	者であって、当	該専門課質して六	(専修学 (専修学 (専修学	学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項	(第2号) (第3号) (第4号) (第5号)	1	Д Д Д	
教員について記		その担当する教程の修業年限と 年以上となる者 ② 学士の学位 ③ 高等学校教 ④ 修士の学位 ⑤ その他 計	牧育等に従事したる と当該業務に従事した。 と当該業務に従事した。 立を有する者等 立を有する者等 故諭等経験者 立又は専門職学位	者であって、当にした期間とを通りであって、当に対ける。	該専門課質して六	(専修学 (専修学 (専修学	中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項 中校設置基準第41条第1項	(第2号) (第3号) (第4号) (第5号)	2	Д Д Д	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

昨今の結婚式における二一ズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。

ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を株式会社FeelingDesignと連携し幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、特にブライダルフラワー専攻では、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、株式会社エッセと連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む 教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には、年度内に2回の開催を原則とし、シラバスを基に、各科目の授業目的や授業内容が業界のニーズに応えたものになっているかを、教員へのヒアリングを交えながら確認し、より実践に即したカリキュラムとなるよう、改善策を提案し、課程を反映するものである。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

	名 前	所 属	任期	種別
西田	篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
野口	幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
鷺坂	伸子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
磯部	浩昭	I 🖽 🗆 🏗 🗸 F 🕢 II 〒 🖊 IP カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。
- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00~17:00 第2回 令和7年3月27日 15:00~17:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科目概要	連携企業等	Γ
	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じで学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和7年6月9日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容 コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和8年6月10日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: ハ₽ロアカテミックハラスメント研修

期間: 令和7年12月 対象:全教職員

内容
アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関係 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法、内容、ガバナンスの3つの 柱を基本に評価をいただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野の特性は明確になっているか、将来構想はあるか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
(3)教育活動	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわ せてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一	一般社団法人ホスピタリティ機構	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也	日本マナー・プロトコール協会	01 H (2 + /	協会役員
西田 篤史	株式会在Feeling Design	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	有限会社果武旅行サービス	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他())

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していくまのとする

ものとする。 (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(と)・寺门子校にののの間報を伝子、の城間に	<u> </u>
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

授業科目等の概要

	#REF! 分類															
		分類	į				,		挖	業プ		場	所	教	員	
	必	必	自由選	授業科目名	授業科目概要	当年次・	授業時	位		演	実験・実習	校	校	専	兼	企業等との
	修	修	択			学期	数	数	義	習	· 実 技	内	外	任	任	携
1	0			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望 動機、履歴書の書き方などの力を身に付け る	1 後 2 前	64	4	0			0		0		
2	0			ナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	前	64	4	0			0		0		
3	0			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1 後 2 通	96	6	0			0		0		
4	0				 結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学 び、模擬挙式の発表を行う	1通	96	6			0	0		0	0	
5	0			ヘアメイク実 習 (ガーデニン グ・ 園 芸 実 習)	草木や花の育て方を学ぶ	1 前	64	4			0	0			0	
6	0			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケ やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ 	1 前	64	4			0	0			0	
7	0			衣装知識 (フラワー知 識)	花に関する知識を学ぶ	1通	64	4	0			0			0	
8	0			フォーマルウ エア検定 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を 広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 後	32	2	0			0		0		
9	0			レストラン サービス技能 士 (ブライダル 情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンド を学ぶ	1 通 2 前	96	6	0			0		0		
10	0			パー ティー サービス実習 (披露宴制作 I)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕 方、流れを実習を通じて学ぶ	1通2通	##	8			0	0		0	0	
11	0			舞台演出 (披露宴制作 Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主 体的に行う	1 後 2 前	64	4			0	0		0	0	

12	0	空間コーディ ネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに 関する技術を身に付ける	1 後 2 通	96	6		0	0			0	
13	0	テーブルコー ディネート	花やバルーンを使ったテーブルコーディ ネートの方法を学ぶ	1 後	32	2		0	0		1	0	
14	0	ブライダル知 識 (ブライダル ファッション 実習)	 ウエディングドレスの着付け 小物の合わ	1 後	32	2		0	0		1	0	0
15	0	カラーコーディネート	色彩検定対策	1 通 2 前	96	6	0		0			0	
16	0	接客英語 (筆記対策 (一般常	就職試験に向けた基礎学力をつける	1 前	32	2	0		0		. 1	0	
17	0	ユニバーサル ホス ピ タ リ ティ (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4	0		0			0	
18	0	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を 身に付ける	1 通	64	4		0	0		1	0	
19	0	インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 後	64	4		0		0			
20	0	和装着付け	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2		0	0		1	0	
21	0	ビバレッジ実 習 (立ち振る舞 い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付け	2 通	64	4		0	0		1	0	
22	0	M C 実習 (接客実習 (プレゼン テーション)	接客の際に必要なお客様への提案の仕方を 学ぶ	2 前	32	2		0	0			0	
23	0	コーディネー ター実務 (ウエディン グプランナー 実務)	ウェディングプランナーの実務を学ぶこと スー結婚式の進歴の済れた党 ご	2通	64	4	0		0			0	

24	0		空間デザイン (PC)	店舗内の装飾を学ぶ	2 前	32	2	0		0			0	
25	0		ディスプレー デコレーショ ン (POP・ち らし作成)	フラワーショップでの仕事の際に必要なPOP やチラシの作成方法を学ぶ	2 後	32	2		0	0			0	
26	0		ウエディング プロデュース (キャリアプ ランニング)	一般常識を学びつつ、社会に出てからの キャリアの積み方を考える	2 前	32	2	0		0			0	
27	0		ウエディング アイテムデザ イン (ラッピング 実習)	花束やフラワーアレンジメントのラッピン グの技術を身に付ける	2 後	64	4		0	0			0	
28	0		ABC検定対 策	アシスタントブライダルコーディネーター 検定対策	2 後	32	2	0		0			0	
29	0		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	2 後	64	4		0	0		0	0	
30	0		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディス カッションなどの力を集中的に見に付ける	2 前	32	2	0		0		0		
31		0	フー ドコ <i>ー</i> ディネーター	TOEICスコア向上のための海外留学	1通2通	##	8	0			0		0	
32		0		実用英語検定の取得やTOEICスコア向上を目指す	1 通 2 前	##	12	0		0		0	0	
33		0	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後2通	96	6		0	0			0	
34		0	ヘアメイク実 習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2 通	64	4		0	0			0	
35		0	エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を 学ぶ	2 通	64	4		0	0			0	
36		0	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける	2 通	64	4		0	0			0	

37			0	フラワーキャ リアアップ	フラワーを使ってドレスに合わせたブーク やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	- 2 通	64	4		0	0			0	
38			0	カ ラ 一 コ ー ディネート	色彩検定対策	2 後	32	2	0		0			0	
39					海外のチャペルやホテルを見学する	1 後 2 後	64	4		0		0	0		
	合計				39	9 科	·目			2560	単位	立 (.	単位	時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法: 必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置	忍可年月	日 校:	長名			所在地		
専門学校東京ホスヒ アカデミー		昭和54	4年10月	1日 千葉	美 敦	(住所)	162-0843 東京都新宿区市谷田	3町3-21		
設置者名		設立記	忍可年月	日代表	者名	(電話)	03-3235-5713	所在地		
学校法人21世紀ア	カデメイア	昭和42	2年1月1	2日 田坂	広志	一 〒 (住所) (電話)	101-0062 東京都千代田区神田	日駿河台2-11		
分野		認定課程名		 認定学科名 フライダル学科 ウ			03-3292-0662 門士認定年度	高度専門士認定	生年度 職業	実践専門課程認定年度
商業実務 		光専門課程		プランナー専	攻		戊12(2000)年度	_		平成27(2015)年度
学科の目的	①企業と連	関携した実習授	業を行い	レ業界が求める「ウエラ ブライダル業界におけ やコミュニケーション能	る高い専門	的な技術と				
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)		ずルコーディネィ	イター技育	を検定、レストランサー	ビス技能検	定				
修業年限	昼夜	全課程の修	了に必要 単位	な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位 かに記入	立いずれ	1,920 単位時間 単位	1,632	単位時間単位	0 単位時間	1,440 単位時間 単位	0 単位時単位	間 0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒到	 	留学生	英(生徒実員の内数)(B)	留学生割	^{単位} 引合(B/A)	- 平位	丰也		= 世世
70 人	10	Д		0 人	0) %				
	■卒業者		:	9		人	.			
	■就職希	望者数(D) <u></u> 数(E)	<u>:</u> :	9		<u>人</u> 人	-			
		職者数(F)		9	_	人 %	- -			
		(E/D) に占める地元 ⁹	就職者の	割合 (F/E)			-			
	■卒業者Ⅰ	こ占める就職者	が割合	100 (E/C)		%	-			
			, нтН	100		%	-			
就職等の状況	■進学者 ■その他	奴		0		人	-			
	(令和		, , , , , , ,	こ関する令和4年5月1	L日時点の情	「幸 民)				
		職先、業界等 - ****								
	(令和6年度 ブライダル	^{卒業生)} ∠業界、ホテル	/業界							
	■民間の	評価機関等が	ト 年 三 -	学 亚布·			無			
第三者による		計画(展展) サガ 、例えば以下に					////			
学校評価		評価団体:			受審年月:			評価結果を掲載した ホームページURL		
 当該学科の								W Z OKL		
ホームページ	https://w	ww.tit.ac.jp/de	epartme	nt/bridal/						
URL	/ A 24/1	- n+ 881 L 7 25	<u></u>							
	(A:单加 	時間による算算 総授業時数	正)						3,072 単位時	問
		_	大企業等	 と連携した実験・実習	・ 実技の授	業時数			32 単位時	
				と連携した演習の授業					0 単位時	
		う	 ち必修授	 業時数					1,920 単位時	計間
				うち企業等と連携した		・実習・実	技の授業時数		32 単位時	間
				うち企業等と連携した	:必修の演習	の授業時数			0 単位時	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
企業等と連携した		(うち企業	等と連携したインター	シシップの	授業時数)			128 単位時	門
実習等の実施状況(A、Bいずれか			_ _							
に記入)	(B:単位	z数による算定》)							
		総授業時数	+ ^ 4" · ·	1 \±14 1 1 ± 50	, ph. 11 - 1-	시			単位	
				と連携した実験・実習 と連携した演習の授業		:耒咛奴			単位 	<u> </u>
			ち企業寺 ち必修授		H可 双				—————————————————————————————————————	
				^{柔呵奴} うち企業等と連携した	:必修の実験	・実習・実	 技の授業時数			
				うち企業等と連携した						
		(うち企業	等と連携したインター						-
									· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
										\neg
		その担当する	教育等に と当該業	程を修了した後、学校 従事した者であって、 務に従事した期間とを	当該専門課	/亩修≐	学校設置基準第41条第1項	〔第1号)	1人	
		② 学士の学	位を有せ	る者等		(亩攸≒	学校設置基準第41条第1項	新第2号)	1 人	
数員の屋州 (声に		③ 高等学校					F校設直基準第41条第1項 学校設置基準第41条第1項		人	
教員の属性(専任 教員について記		④ 修士の学		<u> </u>			学校設直基準第41余第1項 学校設置基準第41条第1項			
入)			山人14年	1 14改一子 1立					<u></u>	<u> </u>
		⑤ その他					学校設置基準第41条第1項	(第3号)	<u></u>	
		計							2 人	
										<u> </u>
		上記①~⑤の実務の能力を			るおおむね	5年以上の	実務の経験を有し、かっ	つ、高度の	2 人	
		2 133 44 UPA1 G.	, v d							
	į.									

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。 ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

	名 前	所属	任期	種別
西田		# # A H C = 1 D = 1	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
野口	幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
鷺坂	伸子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
磯部	浩昭		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- -。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00~17:00 第2回 令和7年3月27日 15:00~17:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

•	- / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	(11 H))(1 = 2		
	科目名	科 目 概 要	連携企業等	
		新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じで学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和7年6月9日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和8年6月10日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容・カッテアナルに向けれ、対応を覚え

^台 カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連 業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわ せてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史	在主会社Essling Design	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日

URL: 公表時期:

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(<u>-) (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・)広報誌等の刊行物 ・ その他(

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

授業科目等の概要

	#RE	F!														
		分類	Į						授	後業プ	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校 外	専任	兼任	企業等との連携
1	0				ブライダル業界における職種や企業研究	1 通	##	8	0		_技_	0		0		
2	0			グセレモニー (挙式))	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学 び、模擬挙式の発表を行う	1 通	64	4			0	0		0	0	
3	0			ジネス実務Ⅲ	ウエディングプランナー検定、ドレスコー ディネーター検定取得のための検定対策。 いずれかを選択する	1 通	64	4	0			0		0		
4	0			就職対策・ビジネスマナー	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望動機、履歴書の書き方、また「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	週	##	8	0			0		0		
5	0			接客英語 (筆記対策 (一般常識)	就職試験に向けた基礎学力をつける	1 通	64	4	0			0			0	
6	0			ⅠⅡ)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕 方、流れを実習を通じて学び模擬披露宴の 準備から発表までを各自が主体的に行う	1通2通	##	10			0	0		0	0	
7	0			料飲サービス 実務Ⅱ (FBサービス 実習Ⅰ) (立ち振る舞 い)	宴会場やレストランにおけるテーブルセッティングおよび料理などのサービスの仕方や、接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	1通2通	##	10			0	0		0	0	
8	0			料実(マグス(デ務) サⅢ イテーション イン (デール が (売るための仕組みを理論で学び海外挙式や ハネムーンの手配に必要な実務を学ぶ	1 通	##	8	0			0		0	0	
9	0			ブライダルビ ジネス実習 I	披露宴に必要な事柄の由来などを学ぶこと で、披露宴に対する知識を深める	1 通	64	4	0			0		0		
10	0			ブライダルビ ジネス実習 II (インターン	実践力を身に付けるため、企業で研修を行う	1 通	64	4			0		0			
11	0			シップ) ブライダル知 識 (ブライダル ファッション 実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わ せ方を学ぶ	1 後	32	2			0	0			0	0

														_
12	0		リアルビジネ ス I (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 前	32	2	0		0			0	
13	0		リアルビジネ スⅡ (卒業制作)	2年間習得してきたことをもとにブライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	1後2後	04	4		0	0		0	0	
14	0		ス皿 (卒業制作)	2年间省侍してさたことをもとにフライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	前	32	2	0		0		0	0	
15	0		演出論 (選曲・演出 知識)	結婚式や披露宴の各場面に合わせた音楽の 選び方、演出方法などを学ぶ	1 通	64	4	0		0			0	
16	0			Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を 身に付ける	1 通 2 通	##	8		0	0			0	
17	0		Ⅱ (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を 広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 前	32	2	0		0		0		
18	0		ウエディング プロデュース 論 ウエディン グプランナー 知識&実習)	ウエディングプランナーの実務を学ぶ	2 通	##	8	0		0			0	
19	0		コーディネー ター実間 コー ディネート アラワー アラワー 習)	バルーンやフラワーを使用し、披露宴会場 の装飾について学ぶ	2 通	64	4		0	0			0	
20	0		演出概論 (ブライダル 情勢論)	を子ふ	2 通	##	8	0		0		0		
21	0		パーティー実 務 (MC実習)	披露宴の司会進行を実践的に学ぶ	2 通	##	8		0	0			0	
22	0		パ ー ティ ー セールス (教養科目)	各自の就職先に合わせ、社会に出る前にさらに力を付けておきたい科目を3科目選択する。 (FBサービス実習II、アテンダー実習、ネイル実習、和装着付け、フラワーアレン	2	64	4		0	0			0	
23		0	検定対策	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得を目指 す	1通2通		16	0		0			0	
24		0	検定補習	レストランサービス技能検定3級・フォーマルウエア検定・色彩検定等の取得のため の補習授業	1通2通	##	16	0			0		0	
25		0	語学	実用英語検定の取得やTOEICスコアの 向上を目指す	1 通 2 通	##	16		0	0		0	0	
26		0	メイク	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1通2通	##	8		0	0		0		
27		0	フラワー	ブーケ及び会場装飾の為の花の技術を身に 付ける	1通2通	##	8	0		0			0	
28		0	インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行 う		##	8		0		0			

合計	28 科目 1	3072 単位 (単位時間)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	F
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期
履修方法: 必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名 専門学校東京ホスL	プタリティ	設置認可年		交長名	〒	162-0843	所在地			
マカデミー		昭和54年10 _.	月1日	葉 敦		東京都新宿区市谷B 03-3235-5713	3町3-21			
設置者名		設立認可年	月日代	表者名	〒	101-0062	所在地			
学校法人21世紀ア	カデメイア	昭和42年1月	12日 田:	坂 広志		東京都千代田区神田 03-3292-0662	日駿河台2-11			
分野		認定課程名	認定学科 フライダル学科		専	門士認定年度	高度専門士認定	年度		<u> </u>
商業実務	_	見光専門課程 	ビューティー	<u>- 専攻</u>	1	戊12(2000)年度 	_		平成2	7(2015)年度
学科の目的	①企業と連	博した実習授業を行	「ル業界が求める「ウコ いブライダル業界にお −やコミュニケーション	ける高い専門	的な技術と					
学科の特徴(取得可 能な資格、中退率 等)	BIAブライタ	格・検定等) ブライダルコーディネイター技能検定、レストランサービス技能検定 退率)0%ロ								
修業年限	昼夜		要な総授業時数又は <i>¥</i> 位数	総請	義	演習	実習	実具	験	実技
2 年	昼間	昼間 ※単位時間、単位いずれかに記入 1,792 単位時間 1,184 単位時間 0 単位時間 1,792 単位時間				1,760 単位時間 単位		単位時間単位	0 単位時間単位	
生徒総定員		上 実員(A) 留学:	上数 (生徒実員の内数)(B)	留学生語	割合(B/A)					
70 人	0	Д	0 人	С) %					
	■卒業者		0		人	• -				
	■就職者		0		<u>人</u> 人					
		職者数(F)	0		人 %	-				
		(E/D) に占める地元就職者(の割合 (F/E)							
	■卒業者Ⅰ	こ占める就職者の割る	0 } (E/C)		%	-				
			0		%					
就職等の状況	■進学者	奴	0		人					
	(令和	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	者に関する令和4年5)	月1日時点の情	青報)					
		職先、業界等								
	(令和6年度 卒業生0	平耒生)								
	■昆明の	京本 総目生よう 笠っ	- 老亚体:			4 00.				
第三者による		評価機関等から第3 、例えば以下について(無				
第二名による 学校評価		並併見/★ ・		巫索左卫			評価結果を掲載した			
		評価団体:		受審年月:			ホームページURL			
当該学科の ホームページ	https://w	ww.tit.ac.jp/departm	ent/hridal/							
URL			, DIIMUI/							
	(A:単位	西時間による算定)								
		総授業時数						2, 944 .	単位時間	
		うち企業	等と連携した実験・実	習・実技の授	業時数			32	単位時間	
			等と連携した演習の授	業時数					単位時間	
		うち必修						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	単位時間	
			うち企業等と連携し						単位時間	
		/2	プラち企業等と連携し						単位時間	
企業等と連携した 実習等の実施状況		(つち企	業等と連携したインタ	ーンシップの	· 坟 耒時奴)			64.	単位時間	
(A、Bいずれか		数による算定)								
に記入)	、5.華田	総授業時数						-	—————————————————————————————————————	
			 等と連携した実験・実	習・実技の授	· 業時数				<u> </u>	
			等と連携した演習の授						単位	
		うち必修	授業時数						単位	
			うち企業等と連携し	た必修の実験	実で野実	技の授業時数			単位	
			うち企業等と連携し	た必修の演習	の授業時数				単位	
		(うち企	業等と連携したインタ	ーンシップの)授業時数)				単位	
	 									
		① 再枚尚拉の吉門	钾钽太极フェナ% ※	歩竿において						
		その担当する教育等	課程を修了した後、学 に従事した者であって ************************************	、当該専門課	, 一声攸兰	单校設置基準第41条第1項	[第1号)	1 .	_	
		程の修業年限と当該 年以上となる者	業務に従事した期間と	を囲昇して六						
		@ # I - W II	L 7 + M		,	4.1.1. cm +1. \\ -1. \\				
		② 学士の学位を有				学校設置基準第41条第1項		1 .		
教員の属性(専任 教員について記		③ 高等学校教諭等				学校設置基準第41条第1項 			<u>۸</u>	
入)		④ 修士の学位又は	専門職学位			^丝 校設置基準第41条第1項			人	
		⑤ その他			(専修学	单校設置基準第41条第1項	(第5号)	,	人	
		計						2 .	人	
				けるおおむね	 5年以上の	実務の経験を有し、かつ	つ、高度の	2 .	\downarrow	
		実務の能力を有する	首を想定)の数						•	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。 ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

- (2)教育課程編成委員会等の位置付け
- ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

	名 前	所 属	任期	種別
西田	篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
野口	幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1
鷺坂	伸子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3
磯部	浩昭	I 🖽 🗆 🏗 🗸 F 🕢 II 〒 🖊 IP カー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_

- ※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00~17:00 第2回 令和7年3月27日 15:00~17:00

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連携	企	業等	
(トータルコーディネー	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じで学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。				

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上の ための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等:ブライダル産業新聞

期間: 令和7年6月9日 対象: ブライダル学科職員

内容
ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和8年6月10日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメント研修

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容
アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

^{*} カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	A C C T C C C C C C C	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物 ・ その他(

URL: https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html

公表時期: 令和7年9月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(<u>-) (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

))

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

)広報誌等の刊行物 ・ その他((ホームページ・

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

授業科目等の概要

	#REF!															
		分類	į						授	業プ		場	所	教	員	
	必修	選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講	演習	実験・実習・守	校内	校 外	専任	兼任	企業等との連携
							双				実 技					125
1	0			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望 動機、履歴書の書き方などの力を身に付け る	1 後 2 前	64	4	0			0		0		
2	0			ビジネスマ ナー	「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、ビジネス文書の書き方などのマナーを身に付ける。	前	64	4	0			0		0		
3	0			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1 後	32	2	0			0		0		
4	0			セレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学 び、模擬挙式の発表を行う	1 通	96	6			0	0		0	0	
5	0			ヘアメイク実 習	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	1 通	##	8			0	0			0	
6	0			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケ やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1 前	64	4			0	0			0	
7	0			衣裳知識	衣装に関する知識とドレスサロンにおける 実務を学ぶ	通	64	4	0			0		0		
8	0			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける	1 通	64	4			0	0			0	
9	0			レストラン サービス技能 士 (ブライダル 情勢論)	ブライダル業界における各職種のトレンド を学ぶ	1 前	32	2	0			0		0		
10	0			パ ー テ ィ ー サービス実習 (披露宴制作 I)	披露宴を行うために必要な役割、準備の仕 方、流れを実習を通じて学ぶ	1 通	64	4			0	0		0	0	
11	0			П)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主 体的に行う	1後2前	64	4			0	0		0	0	
12	0			ブライダル知 識 (ブライダル ファッション 実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わ せ方を学ぶ	1 後	32	2			0	0			0	0
13	0			フォーマルウ エア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を 広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
14	0			ユニバーサル ホス ピ タ リ ティ (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4			0	0			0	
15	0			カ ラ ー コ ー ディネート (パーソナル カラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	1 通 2 通	##	8	0			0			0	

16	0			ファッション 販売検定 (筆記対策 (一般常 識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後2前	64	4	0		0			0
17	0			シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行 う	· 1 後	64	4		0		0		
18	0			知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2		0	0			0
19	0			MC実習 (披露宴制作 Ⅱ)	模擬披露宴の準備から発表までを各自が主 体的に行う	2 前	32	2		0	0		0	0
20	0			コーディネー ター実務 (立ち振る舞 い)		· 2 通	64	4		0	0			0
21	0			A B C検定対 策 (A B C検定 対策)	アシスタントブライダルコーディネーター 検定対策	· 2 後	32	2	0		0			0
22	0			卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	後	64	4		0	0		0	0
23	0			スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディス カッションなどの力を集中的に見に付ける	前	32	2	0		0		0	
24		0		ヘアメイク実 習 Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2 通	##	8		0	0			0
25		0		エステ実習	肌の構造を知り、エステティックの基礎を 学ぶ	2通	##	8		0	0			0
26		0		ネイルエキス パート (ネイル実 習)	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける	, 2 通	64	4		0	0			0
27		0		アロマテラ ピー (ネイル実 習)	人下としての技術を身に付ける	, 2 通	64	4		0	0			0
28		0		パーソナルカ ラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2 通		8	0		0			0
29		0		衣装販売テク ニック (和装実習& 知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 通	64	4		0	0			0
30		0		イン	ドレスに合わせる小物類の製作	2 通	64	4	0		0			0
31		0		イク)	和装の際のヘアメイクの技術を身に付ける	2 前	32	2		0	0			0
32		0		ドレスメンテ ナンス (アテンダー 実習)	介添えの方法を身に付ける	2 前	32	2		0	0			0
33		0		ドレススタイ ルデザイン (衣装トータ ルコーディ ネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小 物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2		0	0			0
34		0		ドレスコー	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小 物類の合わせ方を学ぶ	2 後	32	2		0	0			0
35			0	ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける	1後2通	96	6	0		0			0

36		0	PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を 身に付ける	1 通	64	4	0				0		0
37		0	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後2通	96	6			0	0			0
38		0	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1 前	32	2	0			0		0	0
39		0	英会話	英語力の語学向上を図る	1後2通	96	6	0			0			0
40			ブライダルビ ジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1前2通	32	2	0			0		0	
41			ヘ ア メ イ ク キャリアアッ プ	さる	2 通	##	8			0	0			0
42		0	レストラン サービス技能 士	国家資格取得に向けての検定対策	2 前	32	2	0			0		0	
43			フラワー実習	1やヘアアクセサリーの11年成技術を学ふ	通	64	4			0	0			0
44			空間コーディ ネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに 関する技術を身に付ける	2 後	32	2			0	0			0
45		$\overline{\ }$		ブライダル業界における各職種のトレンド を学ぶ	2 前	32	2	0			0			0
46		0	海外研修旅行	海外のチャペルやホテルを見学する	1後2後	64	4			0		0	0	
	合計 46 科目 2944 単位(単位時間)											立 (単位	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名 専門学校東京ホスb	プタリティ・	設置認可知		校長名		62-0843	所在地		
アカデミー	-	昭和54年10		千葉 敦 ————————————————————————————————————		頁京都新宿区市谷田 3-3235-5713			
設置者名		設立認可年		代表者名		01-0062 5克恕毛伏田区独口	所在地		
学校法人21世紀ア				田坂広志	(電話) 0	[京都千代田区神日 3-3292-0662 		1 min alle	+ 00 = 0 + 0 = 0 · · ·
<u>分野</u> 商業実務		認定課程名 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記 記	フライダル学	学科名 科 ドレススタイリ		<u>士認定年度</u> 2(2000)年度	高度専門士認定		<u> </u>
学科の目的	ニーズが多 ①企業と連	られているブライ を様化しているブライ 連携した実習授業を行 をとしてビジネスマナ	ダル業界が求める テいブライダル業界	における高い専門	L ノナー」の育成 的な技術と知	を目的とする。		1 19	(2/(2010)+ <u>1</u> x
 学科の特徴(取得可	(資格•検5	ニーニーニー 定等) ダルコーディネイター:							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必	・ 要な総授業時数プ 単位数	スは総講	義	演習	実習	実験	実技
2		※単位時間、単位いずれ かに記入			単位時間	0 単位時間	1,728 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生 生			単位 生数(生徒実員の内数		^{単位} 引合(B/A)	早位	単位	単位 単位	単位
70 人	1	Д	0 人	0	%				
	■卒業者	数(C)	:	1	<u>۸</u>				
	■就職希 ■就職者	望者数 (D) 数 (E)	:	1	人				
		職者数(F)		1	人				
		(E/D) に占める地元就職者	の割合 (F/E)	100	%				
		こ占める就職者の割		100	%				
				100	%				
就職等の状況	■進学者■その他	双		0					
	(令和6年度	職先、業界等		年5月1日時点の情	報)				
		評価機関等から第				無			
第三者による 学校評価	※有の場合 	、例えば以下について	任怠記載				評価結果を掲載した		
		評価団体:		受審年月: 			ホームページURL		
当該学科の ホームページ URL	https://w	ww.tit.ac.jp/departr	nent/bridal/						
	(A:単位	[時間による算定]							
		総授業時数						2,944 単位時間	
				・実習・実技の授	業時数			32 単位時間	
			等と連携した演習	『の授業時数 				0 単位時間	
		つち必修 	を授業時数 「ユナヘ業等 k is	5性した心体の字段	· • • • • ++	の伝来は粉		1,792 単位時間	
				፱携した必修の実験 ──── ፱携した必修の演習		の技耒時数 		32 単位時間 	
A 111/ Art 1 Art 166 A		(うちか		E房した必修の演旨 ンターンシップの				64 単位時間	
企業等と連携した実習等の実施状況		() 51	- J. J. C. E.D. 0121					△· + □ + □ □ □ □ □ □ □ □	I
(A、Bいずれか に記入)	 (B:単位	数による算定)							1
		総授業時数						単位	
				・実習・実技の授	業時数			単位	
			等と連携した演習	の授業時数				単位 	
		つち必修	を授業時数 「うち企業等と過		• 宝翌 • 宝廿	の授業時数		単位 単位	
			ノり止未寺と進	EIかした必修の夫験	大日 天坟	ノ1マ 木 川 女		<u>早</u> 世	
			うち企業等と進	携した必修の演習	の授業時数			単位	
		(うち泊		重携した必修の演習 ンターンシップの				単位 ————————————————————————————————————	
		(うちí						• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
		① 専修学校の専門 その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者	業等と連携したイ は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数)	記置基準第41条第1項	〔第1号〕	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	
		① 専修学校の専門 その担当する教育等 程の修業年限と当該	業等と連携したイ 課程を修了した後に従事した者であ 業務に従事した期	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材			単位	
数員の属性(専任		① 専修学校の専門 その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事した者であ 業務に従事した期 「する者等	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材 (専修学材	表設置基準第41条第1項	[第2号)	単位 1 人	
教員の属性(専任 教員について記		① 専修学校の専門 その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者 ② 学士の学位を有	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事した者であ 業業務に従事した期 する者等	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材	記置基準第41条第1項 設置基準第41条第1項	[第2号) [第3号)	単位 1 人 1 人	
		① 専修学校の専門 その担当する教育等 程の修業年限と当該 年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事した者であ 業業務に従事した期 する者等	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材 (専修学材	表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項	5第2号) 5第3号) 5第4号)	単位 1 人 1 人 人	
教員について記		① 専修学校の専門その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事した者であ 業業務に従事した期 する者等	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材 (専修学材	表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表數置基準第41条第1項	5第2号) 5第3号) 5第4号)	単位 1 人 1 人 人	
教員について記		① 専修学校の専門その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は ⑤ その他	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事した者であ 業業務に従事した期 する者等	ンターンシップの な、学校等において っって、当該専門課	授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材 (専修学材	表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表數置基準第41条第1項	5第2号) 5第3号) 5第4号)	単位 1 人 1 人 人 人	
教員について記		① 専修学校の専門その担当する教育等程の修業年限と当該年以上となる者 ② 学士の学位を有 ③ 高等学校教諭等 ④ 修士の学位又は ⑤ その他 計	業等と連携したイ 課程を修了した後 に従事したす で ま る者等 経験者 専門職学位 実務家教員(分野	ンターンシップの 次、学校等において 当該専門課 間とを通算して六	授業時数) (専修学材 (専修学材 (専修学材 (専修学材 (専修学材	表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表設置基準第41条第1項 表數置基準第41条第1項	(第2号) (第3号) (第4号) (第5号)	単位 1 人 1 人 人 人	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本 方針

昨今の結婚式におけるニーズは多様化しており、業界では、結婚を決意したカップルが結婚式を迎えるまで、どのタイミングでどのような業務を行うのか、その業務に必要な知識は何かを幅広く身に付けている人材が求められている。 ブライダル学科では、これに対応するため、結婚式に関わる多くの職種を幅広く実践的に学べるような教育課程を編成している。婚礼時の花嫁の支度に関する知識と技術はブライダル業界でも根幹をなす知識とスキルであり、新郎新婦にコーディネートするブーケや花束のイメージの起点となるものであり、企業と連携し婚礼衣装の着付け等を実践的に学ぶ。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学校長の下部、教員組織である学務部の上位に位置し、当校が実践的かつ専門的な職業教育を実施するために企業と連携し、必要な情報の把握・分析を行い、授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む教育課程の編成に活かすことを目的として設置された組織である。

具体的には年度2回の開催を原則とし、教育課程編成委員会をもって学科カリキュラムを決定していく。1回目は前年度のカリキュラムの検証をおこない、よりよいカリキュラムを構成するための改善案を検討し、必要に応じて実施措置をとる。2回目は変更したカリキュラムの経過をみながらさらに検討を加え、改善措置ならびに次年度カリキュラムの確認を行うものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年9月1日現在

[14H/T-0/11]								
	名 前	所 属	任期	種別				
西田	篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3				
野口	幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	1				
鷺坂	伸子	IA = -1 (=: AT V/47	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	3				
磯部	浩昭	IB 0 = 1 / 0 / 1 - / 1 / 7 - 1 - 1	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	_				

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)
 - ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
 - ②学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年9月20日 15:00~17:00 第2回 令和7年3月27日 15:00~17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

編成委員より改めて、人間力、コミュニケーション力を高める授業の必要性を指摘された。

それを受け令和6年度のカリキュラムより以下の改善を実施する。

- ①「コミュニケーションスキル」授業を企業と連携した実習授業に改善し、より専門的な能力の向上を図る。
- ②それぞれの授業のつながりを持たせられるよう情報共有の徹底。
- ③SNS時代に適応したマーケティングの授業の設置。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ブライダル学科では、多様化するニーズに対応できる幅広い業務知識をもった人材を輩出することを目指している。この目標を実現するためには実務に関する実践的な授業を行うことが必要である。

そこで学科では、企業・業界団体等と連携し、業界のトレンド等に関する情報の提供及び校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力が得られる企業・業界団体を選定している。また、校内の実習の実施にあたり、企業等からの課題を提示し、同企業の講師による定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業・団体を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

株式会社エッセとの連携により、「ブライダル知識」において、業界が求めるスキルの習得やスタイリング力など表現力能力の向上を図っている。

さらに同企業より学期末において学習成果の評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

`		(11 12 1 1 1 1 1 1 1 1		
	科 目 名	科 目 概 要	連携企業等	
	(トータルコーディネー	新婦のウエディングドレス及び新郎のタキシードの着付方法を実習を通じで学ぶことにより、ブライダル業界が求めるスキルの向上を目指す。	株式会社エッセ	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

- (1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
- ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
- ①専門分野における実務に関する研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学科を指導する立場の教員として、常に業界の動向に目を向け、専門知識やスキルを体得するを目的に、業界団体等他の機関により実施される研修に参加することとする。この研修は年に一度、原則として6月に実施している。

②指導力の修得・向上のための研修

就業規則ならびに教務規定に定められたとおり、学生を指導する立場の教員として、学生に対する指導力の修得・向上のための研修に参加する。

上記①及び②の研修は、勤務年数、業界経験年数にかかわらず、特段の理由がない限り参加しなければならない。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和7年6月9日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 教育現場におけるコーチング 連携企業等:日本スクールコーチ協会

期間: 令和6年6月5日 15:30~17:00 対象: 全教職員

内容 コーチングの基本となる考え方を学び、教育現場での学生への活用をのし方を学んだ。

(3)研修等の計画

|①専攻分野における実務に関する研修等|

研修名: 「ブライダル業界の最新動向について」 連携企業等: ブライダル産業新聞

期間: 令和8年6月10日 対象: ブライダル学科職員

内容 ブライダル業界の最新の施設や取り組みを理解し、現状を踏まえた学生指導に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: アカデミックハラスメント研修 連携企業等: NPOアカデミックハラスメントをなくすネットワーク

期間: 令和7年12月 対象: 全教職員

内容
アカデミックハラスメントの事例をもとに、学生とのコミュニケーション方法や学内での報告体制づくりなどア

^{」谷}カハラ防止に向けた対応を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。 また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標に従った人材育成ができているか、あるいはその教育目標を学科の指針として具体的に展開できているか、関連業界、卒業生を対象として、自己評価の結果にそって説明をすることで、教育目的、教育方法・内容、ガバナンスの3つの 柱を基本とした運営面を評価いただく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念•目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか、など
(2)学校運営	目的に沿った運営方針が策定されているか、など
	教育課程に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか、など
(4)学修成果	就職率の向上が図られているか、など
(5)学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(6)教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(7)学生の受入れ募集	募集活動は適正に行われているか、など
(8)財務	中長期的に財政基盤は安定しているか、など
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)社会貢献・地域貢献	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など
(11)国際交流	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

資格対策授業の運営方法として、直前の特別講座の運営を、レベル別クラスに分割して行うなど、より学生の状況にあわせてものとした。また、ボランティアも積極的に斡旋するようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所属	任期	種別
高木 友子		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
野口 幸一		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
木村 克也		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	協会役員
西田 篤史		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
小林 隆	A G C T B T B C T T T T T T T T T	令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	企業役員
米倉 洲		令和6年4月1日~令和8年3月 31日(2年)	卒業生

))

- ※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
- (例)企業等委員、PTA、卒業生等

URL:

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況 に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業が求める、時代に即した人材を育成するための課題やニーズを共有し、学校の実践的な職業教育にかかる活動を評 価・改善する中で、質の高い職業教育を行っていくために、広く雇用側の企業、関係団体、自治体等に向けて公表していく ものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

(<u>-) (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学科の特性や具体的な目標及び計画が設定されているか、など
(2)各学科等の教育	上記の目標にそったカリキュラムになっているか、など
(3)教職員	教職員として学生対応の資質向上にあたっているか、など
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業と連携した授業を体系的に取り入れているか、など
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか、など
(6)学生の生活支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか、など
(7)学生納付金・修学支援	適正に行われているか、など
(8)学校の財務	財政基盤は安定しているか、など
(9)学校評価	設置基準の遵守と適正な運営がなされているか、など
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ、派遣について戦略的に行っているか、など
(11)その他	学生のボランティアを奨励、支援しているか、など

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・ その他(

))

https://www.tit.ac.jp/about/disclosure.html 令和7年9月1日 URL:

公表時期:

授業科目等の概要

	#REF!															
		分類	į						授	業プ	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授 業 時 数	単位数	講	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
1	0			就職対策	就職活動に必要な自己分析、自己PR、志望 動機、履歴書の書き方などの力を身に付け	1 後 2	64	4	0		技_	0		0		
2	0			ビジネスマナー	る 「秘書検定2級」取得を目指しながら、会社 の仕組み、人間関係の構築の仕方、敬語、 ビジネス文書の書き方などのマナーを身に 付ける。	前 2 後	64	4	0			0		0		
3	0			業界研究	ブライダル業界における職種や企業研究	1後2前	64	4	0			0		0		
4	0			ウエディング セレモニー	結婚式の各スタイルにおけるしきたりを学 び、模擬挙式の発表を行う	1 通	96	6			0	0		0	0	
5	0			ヘアメイク実 習		1通	##	8			0	0			0	
6	0			フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケ やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	1 前	64	4			0	0			0	
7	0			衣装知識 (ドレスメー キング)	オリジナルドレスの製作をすることでドレ	1	64	4			0	0			0	
8	0			ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける	1 通	64	4			0	0			0	
9	0			レストラン サービス技能 士 (ブライダル 情勢論)	ノフ1ダル耒芥にありる谷喊俚のトレノト	1 前	32	2	0			0		0		
10	0				披露宴を行うために必要な役割、準備の仕 方、流れを実習を通じて学ぶ	1通	64	4			0	0		0	0	
11	0			舞台演出 (披露宴制作 Ⅱ)	本の11 ブ	1後2前	64	4			0	0		0	0	
12	0			ブライダル知 識 (ブライダル ファッション 実習)	ウエディングドレスの着付け、小物の合わ せ方を学ぶ	1 後	32	2			0	0			0	0
13	0			フォーマルウ エア知識 (各種概論)	観光業界全般について学ぶことで、視野を 広げ、各自が目指す業界との関係を学ぶ	1 通	64	4	0			0		0		
14	0			ユニバーサル ホスピタリ ティ (ブライダル ゼミ)	産学協同に向けた実践	1 通	64	4			0	0			0	

		П	カラーコー		Ι1									
15	0		ディネート (パーソナル カラー)	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	· 通 2 通		8	0		0			0	
16	0		ファッション 販売検定対策 (筆記対策 (ー般常 識))	就職試験に向けた基礎学力をつける	1後2前	04	4	0		0			0	
17	0		インターン シップ	実践力を身に付けるため、企業で研修を行 う	f 1 後	64	4		0		0			
18	0		MC実習 (立ち振る舞 い)	接客業に必要な立ち居振る舞いを身に付ける	^十 2 前	32	2		0	0			0	
19	0		コーディネー ター実務(ド レスコーディ ネ ー タ ー 実 務)		鱼 2	64	4		0	0			0	
20	0		A B C検定対 策	アシスタントブライダルコーディネーター 検定対策	- 後	32	2	0		0			0	
21	0		卒業制作	2年間習得してきたことをもとにブライダル 業界へ新たな提案を行う産学協同イベント	後	64	4		0	0		0	0	
22	0		スキルアップ	就職活動に必要な面接、グループディスカッションなどの力を集中的に見に付ける	前		2	0		0		0		
23		0	パーソナルカ ラー	各お客様に似合うカラーの見極め方を学ぶ	2 通	##	8	0		0			0	
24		0	太装販売テク ニック (ドレスコー ディネーター 実務)	ドレスコーディネーターとしての実務を学 ぶ	通	64	4		0	0			0	
25		0	ネイルエキス パート	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェルネイル技能検定の取得を目指しつつネイリストとしての技術を身に付ける		64	4		0	0			0	
26		0	ヘアメイク実 習 Ⅱ	ブライダルヘアメイクの技術を学ぶ	2 通	##	8		0	0			0	
27		0	習)	ドレスサロンにおける接客を学ぶ	2 前 後	##	8		0	0		0		
28		0	イン	ドレスに合わせる小物類の製作	2 通	64	4		0	0			0	
29		0	ウエアー検定対策)		2 通	64	4	0		0			0	
30		0	ナンス)	ドレスコーディネーターの業務の一つである衣装メンテナンスの技術を身に付ける	5 1 前	32	2		0	0		0		
31		0	知識)	和装の知識と着付けの技術を身に付ける	2 前	32	2		0	0			0	
32		0	(衣装トータ ル コ ー ディ ネート)	新郎新婦のトータルの衣装の合わせ方、小物類の合わせ方を学ぶ	後	32	2	0		0			0	
33		0	ドレススタイ	婚礼衣装に関わる各スタイルの違いを学ぶ	2 後	32	2	0		0			0	

_	 													
34	C		ネイル実習	ネイルスペシャリスト技能検定及びジェル ネイル技能検定の取得を目指しつつネイリ ストとしての技術を身に付ける		96	6	0		0			0	
35	C		PC実習	Word, Excel, Powerpointなどの基本的操作を 身に付ける	1 通	64	4	0			0		0	
36	C)	手話	接客に必要な手話を学ぶ	1後2通	96	6		0	0			0	
37	C)	接客英語	接客で使う英語のスキル向上を目指す	1 前	32	2	0		0		0	0	
38	C)	英会話	英語力の語学向上を図る	1後2通	96	6	0		0			0	
39	C		ブライダルビ ジネス論	ブライダル業界全般について学ぶ	1 後	32	2	0		0		0		
40	C		ヘ ア メ イ ク キャリアアッ プ	ブライダルヘアメイクの技術をさらに向上 さる	2 通	##	8		0	0			0	
41	C) -	レストラン サービス技能 士	国家資格取得に向けての検定対策	2 前	32	2	0		0		0		
42	C		フラワー実習	フラワーを使ってドレスに合わせたブーケ やヘアアクセサリーの作成技術を学ぶ	2 通	64	4		0	0			0	
43	C		空間コーディ ネート	披露宴会場などの空間のコーディネートに 関する技術を身に付ける	2 後	32	2	0		0			0	
44	C	$\sqrt{}$		ブライダル業界における各職種のトレンド を学ぶ	2 前	32	2	0		0			0	
45				海外のチャペルやホテルを見学する	1後2後	64	4		0		0	0		
	É	3		45	杉	目			2944	単位	立 (単位	時間	1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 108単位以上を取得。その内必修科目は104単位以上取得しなければな	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:必修選択・自由選択科目は1回目の授業開始前までに希望をとる	1 学期の授業期間	16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。